６０周年記念誌

５０周年から１０年の歩み

特定非営利活動法人
芦屋市体育協会

CONTENTS

発刊のことば……1
ご祝辞……2
芦屋市体育協会６０周年に寄せて……3

５０周年から１０年の歩み……4

芦屋市体育協会から特定非営利活動法人芦屋市体育協会へ……9

種目協会の歩み……10

屋市陸上競技協会……11
芦屋柔道協会……12
芦屋水友会……13
芦屋登山会……14
芦屋野球協会……15
芦屋卓球協会……16
芦屋剣道協会……17
芦屋市ソフトテニス協会……18
芦屋市弓道協会……19
芦屋市テニス協会……20
芦屋空手協会……21
芦屋市バレーボール協会……22
芦屋ソフトボール協会……23
芦屋市サッカー協会……24
芦屋市バドミントン協会……25
芦屋市少林寺拳法協会……26
特定非営利活動法人芦屋ラグビーソサェティー……27
芦屋ヨットクラブ……28
芦屋市ゲートボール協会……29
日本拳法芦屋……30
芦屋市カヌー協会……31

ニュース Pick Up　第６１回国民体育大会　のじぎく兵庫国体
“ありがとう”心から・兵庫から……32

平成２０年度特定非営利活動法人芦屋市体育協会役員……33
平成２０年度特定非営利活動法人芦屋市体育協会会員……33
専門委員会……35
創立６０周年記念芦屋市体育協会功労者表彰者……36
特定非営利活動法人芦屋市体育協会創立６０周年記念行事運営委員会委員……36
あとがき……37

かけあう声が
応援する声が
力強く走り抜ける足音が
グラウンドいっぱいに響き渡る
私たちは、健康アスリート！
さぁ、はじめてみませんか
スポーツライフを
みなさんも

創立60周年

特定非営利活動法人　芦屋市体育協会

発刊のことば

特定非営利活動法人
芦屋市体育協会会長　　花　木　義　輝

芦屋市体育協会は、１９４８年（昭和２３年）１１月に創設され、今年で６０周年を迎える事となりました。この永きにわたる協会の歴史の中で、未曾有の大災害となった阪神淡路大震災を忘れることができませんが、私たちは、大震災から２年後の１９９７年（平成９年）１１月には、芦屋市民センター、ルナ・ホールにおいて５０周年記念式典を盛大に挙行することができました。また、活動の拠点となる芦屋市立体育館をはじめ多くのスポーツ施設が損壊するなど甚大な被害を受けたため、活動の停滞を余儀なくされた時期もございましたが、こうした苦難を乗り越えて、今日の活動に、元気を取り戻すに至っております。このことは戦後の混乱期の中から当協会を創設された先人の方々のスポーツへの熱情と精神が、今日の種目協会の皆様の中に引き継がれている証であると理解しているところでございます。

このような歓苦６０年の歴史において、２００６年（平成１８年）、２度目となる第６１回兵庫国民体育大会の開催では、カヌー競技、ライフル競技で震災復興の芦屋の元気を見せる大会になりました。

さらにスポーツで元気な街づくりを推進する体育協会では、自主自立を目指して、２００５年（平成１７年）に、当協会は特定非営利活動法人芦屋市体育協会を設立、法人組織として歴史に新たな１ページを開き、翌年平成１８年には、芦屋市立体育館などスポーツ施設の管理運営を行う指定管理者として事業活動を展開しているところでございます。

このことは、ひとえに芦屋市、芦屋市教育委員会、並びにスポーツを愛する２２種目協会の皆様のご厚情の賜と深く感謝いたしております。

このたび６０周年記念誌を刊行する事になりましたが、本誌は、先人の残された足跡を大切にしながら迎えた５０周年から１０年の歩みを「読みやすく、親しまれる記念誌」を念頭に置き編纂いたしました。

本誌に、ご祝辞を賜りました芦屋市長　山中　健　様、芦屋市教育長　藤原　周三様をはじめ、寄稿いただきました各種目協会の皆様に心から御礼申し上げます。

特定非営利法人芦屋市体育協会は、６０周年を契機として、より一層市民スポーツの普及と振興に全力を尽して参る所存でございます。今後とも芦屋市、芦屋市教育委員会をはじめ各種目協会の皆様の、更なるご支援とご協力をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

ご 祝 辞

芦屋市長　山　中　　健

芦屋市体育協会が創立 60 周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。芦屋市のスポーツ振興発展への永きにわたる努力と，豊かな人間性・健康を育む活動に取り組んでこられましたことに，心からの感謝と敬意を捧げたく存じます。

「ありがとう 心から ひょうごから」のスローガンのもと，平成 18 年に開催されました第 61 回国民体育大会は，芦屋市におきましても，ライフル射撃競技・カヌー競技ともに熱戦を繰り広げました。そして，素晴らしい感動を得たことで，市民のスポーツへの関心が一層高まったことを実感いたしました。カヌー競技会場となりました芦屋キャナルパーク周辺は，人口海浜，緑地などを配した新しい芦屋として，市民の憩いの場でもあります。この「のじぎく国体」で，阪神・淡路大震災から復興した元気な芦屋市を発信できたことは，芦屋市に寄せられた全国からの温かいご支援への感謝の気持ちとなりました。

芦屋市の目指す「スポーツ・フォア・エブリワン」（いつでも，どこでも，気楽に生涯にわたってスポーツを楽しむ）とは，まさに生涯スポーツの充実を願うことです。

これからもスポーツを通じて，健康で充実した環境が育つことを期待いたしますとともに，芦屋市体育協会のますますのご発展を祈念して祝辞とさせていただきます。

芦屋市体育協会６０周年に寄せて

芦屋市教育長　　藤　原　周　三

芦屋市体育協会創立６０周年　心からお祝い申し上げます。

創立昭和２３年。第二次大戦敗戦直後，衣・食・住すべてに困窮。そんな中にあってもスポーツの重要性を信じ，関係の方々が芦屋市体育協会を設立されました。その日の食に困っても，心身の健康を願い，その願いを当時の関係者はスポーツ振興に託されたと思います。

以来６０年。二度の国体を開催し，現在では花木会長のもと，２２の団体を組織する大規模な協会に発展されました。芦屋市は芦屋市体育協会と共に発展したと言っても過言ではないと考えます。

さらに，平成１８年度からは特定非営利活動法人芦屋市体育協会として，本市体育関連施設の指定管理者として，施設の管理運営を行っていただいております。

行財政改革による市文化振興財団の解散に伴い，諸施設の運営が危機に直面し，私も教育長として，財政面・運営面においてその対応に困窮しておりました。

そんな時「芦屋の体育は芦屋市民の手で」と体育協会が指定管理者に名乗りを挙げられました。しかし，それまでの一体育協会がＮＰＯ法人として，諸体育施設を管理運営することは決して容易なものではありません。体育協会内部でも，市との関係においても，また，市民の中にも多様な意見がありました。私も何度も話し会いの場に出席し，時には「体育協会が指定管理者になることは無理では」という言葉さえ出た事を記憶しています。しかし関係者のスポーツを思う熱い思いが幾多の困難を克服し，今日の運びとなっています。

改めて関係者の方々のご苦労に感謝申し上げます。

６０周年を契機として，芦屋市体育協会が今後さらに大きく発展され，Ｓｐｏｒｔｓ　ｆｏｒ　Ｅｖｅｒｙｏｎｅの合言葉が一日も早く実現できるよう心から願っております。

特定非営利活動法人芦屋市体育協会

50周年から10年の歩み

芦屋市体育協会は、２００５年（平成１７年）９月に特定非営利活動法人芦屋市体育協会となり、その歴史に新たな１ページを開きました。これからも、スポーツと文化の融合を図りながら、新時代の体育協会として、活動してまいります。

50周年から10年の歩み

芦屋市体育協会は、地域住民を中心に、スポーツ及び文化の指導・講習会・競技会を行い、芦屋市におけるスポーツ文化の普及･振興に寄与することを目的に様々な取り組みを行ってきました。「５０周年から１０年の歩み」では、芦屋市体育協会が取り組んできた主な事業について紹介します。

1 1999年度(平成11年度)の歩み

５月８日に、芦屋市立体育館・青少年センター大会議室で、芦屋市体育協会総会が開催され、平成１０年度における各種大会で優秀な成績を収めた選手の方や体育功労者の方の表彰を行っています。

９月４日に、芦屋市立体育館・青少年センター競技場で、兵庫県体育協会補助金事業として、講演及び救急蘇生法実技講習会を、芦屋市消防本部、芦屋保健センターとの共催で開催しています。

３月１９日に、芦屋市立体育館　競技場で、兵庫県体育協会補助金事業のレクリエーションスポーツ事業「クロリティー講習会及び大会」を開催しています。この事業では、ニューレクリエーションスポーツのクロリティを紹介し、交流大会を行っています。

2 2000年度(平成12年度)の歩み

５月１３日に、芦屋市立体育館・青少年センター　大会議室で、芦屋市体育協会総会が開催され、平成１１年度における各種大会で優秀な成績を収めた選手の方や体育功労者の方の表彰を行っています。

１２月９日に、芦屋市立精道幼稚園遊戯室で、兵庫県体育協会補助金事業として、救急蘇生法講習会を開催し、３０人が受講しています。

３月１１日に、芦屋市立体育館・青少年センター　競技場で、兵庫県体育協会補助金事業のレクリェーションスポーツ事業「クロリティー講習会及び大会」を、芦屋市レクリェーションスポーツ協会との合同事業で開催しています。この事業では、誰でも気軽にできるニュースポーツ・クロリティ大会を通じて市民相互の交流を図っています。

救急蘇生法講習会

３月２４日に、芦屋市立体育館・青少年センター　大会議室で、応急処置と障害予防に効果が高い「テーピング講習会」を開催し、４７人が受講しています。

４月７日に、芦屋市立体育館・青少年センター第１・第２会議室で、より実践的な「テーピングフォローアップ講習会」を開催し、１５人が受講しています。

３月３１日、広報誌「体協だより」を発行し、市内各所、加盟団体に配布しています。また芦屋市体育協会案内パンフレットを発行しています。

テーピング講習会

3 2001年度(平成13年度)の歩み

５月２６日に、芦屋市立体育館・青少年センター　大会議室で、芦屋市体育協会総会が開催され、平成１２年度における各種大会で優秀な成績を収めた選手の方や体育功労者の方の表彰を行っています。

７月１４日に、芦屋市立体育館・青少年センター　柔道場で、兵庫県体育協会補助金事業として、救急蘇生法講習会を開催しています。

１月２７日に、応急処置と障害予防に効果が高い「テーピング講習会」を開催しています。

３月３０日に、兵庫県体育協会補助金事業のレクリェーションスポーツ事業「ニュースポーツ講習会及び大会」を開催しています。この事業では、誰でも気軽にできるニュースポーツ大会を通じて市民相互の交流を図っています。

３月３１日、広報誌「体協だより」を発行し、市内各所、加盟団体に配布しています。

4 2002年度(平成14年度)の歩み

５月１９日に、芦屋市立体育館・青少年センター　大会議室で、芦屋市体育協会総会が開催され、平成１３年度における各種大会で優秀な成績を収めた選手の方や体育功労者の方の表彰を行っています。

７月２７日に、芦屋市立体育館・青少年センター　剣道場で、兵庫県体育協会補助金事業として、救急蘇生法講習会を開催し、２８人が受講しています。

８月２０日に、芦屋カンツリー倶楽部で、市の委託事業である芦屋市民ゴルフ大会を受託し開催しています。この大会に９８人の市民の方が参加しています。

１月１５日に、芦屋市民センター３０１号室で、応急処置と障害予防に効果が高い「スポーツテーピング講習会」を開催し、３９人が受講しています。

３月２３日に、芦屋市立体育館・青少年センター　大会議室で、小浦武志氏（フェドカップ日本女子チーム監督）を講師に招き「第１回競技力向上研修会」を開催しています。この研修会に５２人が受講しています。

３月２９日に、芦屋市立体育館・青少年センターで、兵庫県体育協会委託事業のレクリエーションスポーツ事業「クロリティー交流会」を開催しています。この交流会では、１６８人が参加し、市民相互の交流を図っています。

１０月３１日及び３月３１日に、広報誌「体協だより」を発行し、市内各所、加盟団体に配布しています。

5 2003年度(平成15年度)の歩み

５月２４日に、芦屋市立体育館・青少年センターで芦屋市体育協会総会が開催され、平成１４年度において各種大会で優秀な成績を収めた選手の方や体育功労者の方の表彰を行っています。

７月１９日に、救急蘇生法講習会を開催し、２１人が受講しています。

８月２８日に、芦屋カンツリー倶楽部で、市の委託事業である芦屋市民ゴルフ大会を受託し開催しています。７８人の市民の方が参加しています。

１月１１日に、芦屋市民センター４０１号室で、「潜在能力を引き出す指導法」をテーマに、講師に日本代表サッカーチーム　フィジカルコーチ　里内　猛氏を招き、第２回競技力向上研修会を行っています。

クロリティ交流会

３月２７日に、芦屋市レクリエーションスポーツ協会との共催で、兵庫県体育協会委託事業のクロリティー交流大会を、レクリエーションスポーツ事業として取り組んでいます。この交流大会に７８人が参加しています。

１０月３１日、３月３１日の２回、広報誌「体協だより」を発行し、市内各所、加盟団体に配布しています。

6 2004年度(平成16年度)の歩み

５月１５日に、芦屋市立体育館・青少年センター　競技場で第１回芦屋市民体育大会総合開会式を開催し、平成１５年度において各種大会で優秀な成績を収めた選手の方や体育功労者の方の表彰を行っています。

８月２６日に、芦屋カンツリー倶楽部で、市の委託事業である芦屋市民ゴルフ大会を受託し開催しています。１４１人の市民の方が参加しています。

１０月９日～１１日及び１７日に、体育の日の協賛事業として、体協フェスタを開催しています。このフェスタには体育協会に加盟している１３種目協会が実施し、延べ約1，000人の方が参加しています。

１２月１２日に、芦屋市立体育館・青少年センター　大会議室で、「指定管理者制度　ースポーツ政策における意義づけー」をテーマに、大竹弘和氏を講師に招き、学習会を開催しています。

１月１９日に、芦屋市民センター３０１号室で、「指導者のありかた　ー指導者と選手のかかわり方ー」をテーマに、岩立三郎氏を講師に招き、競技力向上研修会を開催しています。

１月２９日に、芦屋市立体育館・青少年センター　大会議室で、兵庫県体育協会補助事業として「応急処置と障害予防に効果が高いテーピングの講習」をテーマに、米田太朗氏を講師に招き講習会を開催しています。

３月２７日に、芦屋市立体育館・青少年センター　大会議室・競技場で、芦屋市レクリエーションスポーツ協会との共催で、兵庫県体育協会委託事業のクロリティー交流大会を、レクリエーションスポーツ事業として取り組んでいます。

４月１日に、広報誌「体協だより」を発行しています。

7 2005年度（平成17年度）の歩み

４月１３日に、芦屋市民センター　３０１号室で、「スポーツの現状と課題　－次世代につなぐクラブ運営を目指して－」をテーマに、講師に小浦武志氏を招き、第１回スポーツクラブマネージャー・スポーツ指導者研修会を開催しています。

５月２２日に、芦屋市立体育館・青少年センター　大会議室及び競技場で、第２回市民体育大会総合開会式を開催し、平成１６年度において各種大会で優秀な成績を収めた選手の方や体育功労者の方を対象に表彰を行い、体育協会長杯を授与しています。

３月に設立されたカヌー協会が、５月に、体育協会に加盟しています。

９月１日に、芦屋カンツリー倶楽部で、市の委託事業である芦屋市民ゴルフ大会を受託し開催しています。１１４人の市民の方が参加しています。

６月１１日～９月２４日にかけて、芦屋市立体育館・青少年センター　大会議室で、講師派遣事業である地域の子どもの居場所づくりとして、スポーツを通じて行う「子ども居場所づくりスポーツクラブ」を、毎月第２、第４土曜日（午前中）に実施しています。このクラブでは、バドミントン、キッズテニス、卓球の競技種目を行っています。

また、このクラブが好評であったため、９月２４日～３月２５日にかけて、毎月第２、第４土曜日に、引き続き実施しています。このクラブに市内小学生延べ1，100人が参加しています。

さらに年間を通じて、芦屋市民体育大会が種目協会において、芦屋市立体育館・青少年センターをはじめ市内１４施設で開催され、体育協会会長杯を実施しています。

９月２６日に、芦屋市体育協会は特定非営利活動法人芦屋市体育協会となり、このことについて１０月１５日に、芦屋市民センター４０１号室で報告会を行っています。

１０月８日～１０日・２２日・３０日に、芦屋市立体育館・青少年センターをはじめ市内６会場で、スポーツ体験の機会を市民に提供することを目的として、体協フェスタを開催しています。加盟団体並びに市民、延べ７０２人が参加しています。

１２月２７日に、芦屋市立体育館・青少年センターで、第２回スポーツクラブマネージャー・スポーツ指導者研修会を開催しています。加盟団体から２１人が参加しています。

４月１日に、広報誌「体協だより」を発行し、市内各所、加盟団体に配布しています。

8 2006年度（平成18年度）の歩み

４月１日から、芦屋市から市内のスポーツ施設の指定管理業務を受託し、芦屋市立体育館・青少年センター、川西運動場、テニスコート、中央公園有料公園施設等の管理運営を行っています。管理運営を行うにあたり、市民の視点、利用者の立場に立った管理運営を目指し、スポーツ施設の利用促進について芦屋市に提案を行い、体育館の深夜枠の利用を開始しています。

５月１４日に、芦屋市立体育館・青少年センターで、第３回芦屋市民体育大会総合開会式が行われ、平成１７年度において各種大会で優秀な成績を収めた選手の方や体育功労者の方の表彰を行っています。

５月～３月にかけて、芦屋市民体育大会が市内のスポーツ施設で行われています。この大会では１１競技が実施され、優勝者に体育協会長杯を授与しています。

６月に、芦屋市内指導者調査を実施しています。同１７日、芦屋市商工会館で「危険がいっぱい夏のスポーツ　熱中症」をテーマに、指導者養成講座としてスポーツクラブマネージャー・スポーツ指導者研修会を開催しています。また平成１９年１月１３日に、芦屋市民センターで「幼少期のスポーツ障害」をテーマに、同研修会を開催しています。

８月に、広報誌「体協だより」を発行し、市内各所、加盟団体に配布しています。

８月２７日に、芦屋カンツリー倶楽部で市の委託事業である芦屋市民ゴルフ大会を受託し、開催しています。１２９人の市民の方が参加しています。

１０月１４日・１５日に、市内のスポーツ施設で、体協フェスタを開催しています。約2，000人の市民の方が参加しています。

３月２５日に、芦屋市立体育館・青少年センター　競技場で、芦屋市レクリエーションスポーツ協会との共催で、兵庫県体育協会委託事業としてクロリティー交流大会を、レクリエーションスポーツ事業として取り組んでいます。１００人が参加しています。

１年を通して、市民を対象としたテニス教室、フィットネス教室を開催しています。
また月２回の「子ども居場所づくりスポーツクラブ」の運営に協力しています。

２月８日に、芦屋市立体育館・青少年センター「協会を活かすための組織づくり」をテーマに、半田篤氏を講師に招き、競技力向上研修会を開催しています。この研修会に、芦屋市内及び近隣市から２３人の指導者が受講しています。

9 2007年度（平成19年度）の歩み

特定非営利活動法人として３年が経過し、法人の目的である芦屋市におけるスポーツの普及・振興に寄与する事業に積極的に取り組んでいます。

５月２０日に、芦屋市総合公園陸上競技場で第４回芦屋市民体育大会総合開会式を開催し、平成１８年度において各種大会で優秀な成績を収めた選手の方や体育功労者の方を対象に表彰を行っています。

５月～３月にかけて、芦屋市民体育大会が市内のスポーツ施設で行われています。この大会では１４競技が実施され、優勝者に体育協会長杯を授与しています。

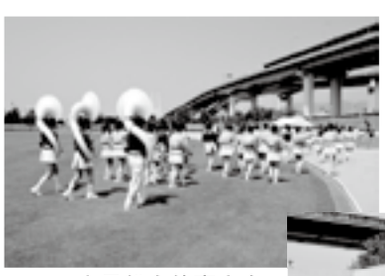
７月１４日に、芦屋市立体育館・青少年センターで「危険がいっぱい夏のスポーツ　２００７」をテーマに、指導者養成講座を開催しています。この講座に３０人が受講しています。

８月２９日に、芦屋カンツリー倶楽部で、市の委託事業である芦屋市民ゴルフ大会を受託し開催しています。１０７人の市民の方が参加しています。

８月に、広報誌「体協だより」を発行し、市内各所、加盟団体に配布しています。

１月２６日に、芦屋ルナ・ホールで「ＡＳＨＩＹＡスポーツ２００８」を、兵庫県サッカー協会と共催で開催しています。このフォーラムでは市民の運動・スポーツのニーズが増加する一方で地域スポーツの受け皿が厳しいという現状を踏まえ、地域のスポーツクラブの展望について意見交換を行っています。

平成１８年度で終了した文部科学省事業の子ども居場所づくり事業を、体育協会事業として引継ぎ、体協チャレンジと改称し、７種目において実施し、子どもたちにスポーツ体験の機会を提供しています。またこの事業の運営にあたっては、７団体５５人が従事し、市内の小学生２３４人が参加しています。



市民総合体育大会

体育功労者等の表彰

１０月６日～８日・１４日・２０日・２７日、芦屋市立体育館・青少年センターをはじめ市内のスポーツ施設で、体協フェスタを開催し、加盟団体並びに市民、延べ1，200人が参加しています。

３月２２日に、芦屋市立体育館・青少年センター　競技場で、芦屋市レクリエーションスポーツ協会との共催で、レクリエーションスポーツの普及・啓発を目的として、クロリティー交流大会を取り組んでいます。この交流大会に１３０人の市民の方が参加しています。

体協チャレンジ

10 2008年度（平成20年度）の歩み

５月１８日、芦屋市総合公園陸上競技場で、第５回芦屋市民体育大会総合開会式が行われ、平成１９年度において各種大会で優秀な成績を収めた選手の方や体育功労者の方の表彰を行っています。

５月２５日に、芦屋市立体育館・青少年センター大会議室で、特定非営利法人体育協会総会を開催しています。

８月２７日に、芦屋カンツリー倶楽部で、市の委託事業である芦屋市民ゴルフ大会を受託し開催しています。この大会に１５２人の市民の方が参加しています。

９月２１日（日）芦屋市民センター４０１号室で、プロテニスプレイヤー竹内映二氏（アテネオリンピック日本代表チームコーチ、北京オリンピック日本代表チーム監督、デビスカップ監督）を講師に招き、「北京オリンピックを終えて」「育成と強化」をテーマに、芦屋市体育協会設立６０周年記念講演を行っています。さらに、ホテル竹園芦屋で記念式典を挙行しています。

体協チャレンジ

芦屋市体育協会から
特定非営利活動法人芦屋市体育協会へ

芦屋市体育協会は、１９４８年（昭和２３年）１１月に設立され、現在、特定非営利活動法人芦屋市体育協会として、市民スポーツの振興・発展に向けて様々な活動を行っています。

ここでは、芦屋市体育協会が、特定非営利活動法人化を図った経緯などについて紹介します。

‖スポーツと文化を融合させ、スポーツの楽しさ、素晴らしさを提供‖

芦屋市体育協会は、戦後の混乱期の中でスポーツを愛する先人たちの熱意と尽力により設立されました。

以来、市民スポーツの振興と普及、発展に向けた様々な活動を展開してきたところですが、自主自立を目指して、新たな団体、組織のあり方として特定非営利活動法人化に向けた検討・準備を進めることとしました。

２００４年（平成１６年）１２月２２日、常任理事会においてＮＰＯ法人化を提案し、検討委員会で検討し結論を出すことを決めました。２００５年(平成１７年）６月１５日、特定非営利活動法人芦屋市体育協会設立総会が開催され、同年９月２０日、兵庫県から認証書を受け、同年９月２６日、法務局への登記手続が完了し、特定非営利活動法人芦屋市体育協会が発足しました。

その目的について花木義輝会長は、２００５年(平成１７年）１０月１５日、芦屋市民センターで行われた「特定非営利活動法人芦屋市体育協会設立報告会」のあいさつで「２１世紀の芦屋市体育協会をどう次世代につなぎ、継続、発展させていくかを考えるとき、スポーツを楽しむために自分の意思によって入会した会員が資金、時間、情報、知恵を出し合い、平等な資格で運営、活動していくことが絶対必要条件であると確信し、このたび自主自立を目的として法人格を取得しました。」と述べています。

また、設立の趣旨については、経済の低迷が、市民のスポーツや文化に触れる機会の減少をもたらしていると分析したうえで､「ただ単に競技スポーツを提供するだけでなく、子どもから高齢者又は障害のある方も含め初心者から上級者まで、スポーツの楽しさ素晴らしさを提供」し「体育会的なスポーツ一辺倒でなく、スポーツを文化として育んでこそ、健全な心身が形成される」との考えから、新時代の体育協会として、「市民活動に寄与したい。」と述べています。

活動の３つのポイント

1 自主自立
2 弱化種目団体の活性化
3 収益事業の実施

特定非営利活動法人化の経緯

２００４年	１２月２２日	常任理事会でＮＰＯ法人化を提案する。
２００５年	３月　３日	ＮＰＯ法人設立準備委員会を開催する。
	３月　６日	ＮＰＯ法人設立（案）を加盟種目団体に送付。
	３月１８日	常任理事会でＮＰＯ法人化の作業を決定。
	４月１２日	定款の案文を作成し、ＮＰＯ法人化について兵庫県参画協働課と協議を行う。
	６月１５日	特定非営利活動法人芦屋市体育協会設立総会を開催し、承認される。
	６月３０日	兵庫県に申請書を提出
	９月２０日	兵庫県の認証式において、認証を受ける。
	９月２６日	「特定非営利活動法人芦屋市体育協会」の登記手続が完了する。

種目協会の歩み

芦屋市における市民体育の普及と発展に向けて、芦屋市体育協会とその傘下の各種目協会は、様々な取り組みを行なってきています。ここにその活動記録を掲載します。

次の10年へつなげ、陸上競技の発展へ

競技場での練習や大会の効果もあり、競技力も徐々に向上、これからが楽しみ

芦屋市陸上競技協会の主な活動目的は競技力の向上・陸上競技の普及・中高生の育成です。具体的には、日本陸連への選手の登録、駅伝などの大会への芦屋市代表の派遣、陸上競技大会やロードレース大会の開催、市内中学・高校合同の練習会の開催、小学生を中心とした陸上クラブや体協フェスタによる普及活動などです。

この 10 年間も、これらの活動に取り組んできた訳ですが、前半の 5 年と後半の 5 年では、かなり状況が変わりました。

平成 10 年代の前半は、低迷の時期でした。震災後に競技人口が減少したこともあり、全体のレベルが低いだけでなく、層の薄さも問題でした。阪神地区対抗駅伝や兵庫県郡市区対抗駅伝への代表選手の確保にも苦労する状態で、男子では他のクラブの中学生に出場してもらったことや一般のメンバーが揃わず棄権したこともありました。

こんな中で、活躍を見せたのが女子マラソンの三枝さん、井床さん、西川さん。大阪、東京、名古屋と日本の三大マラソンでコンスタントに 3 時間を切り、2 時間 40 分台も何度かマークし、もう一息でトップクラスの選手に近づくレベルでの活躍でした。彼女たちに引っ張られた女子駅伝では、中学生のレベルが低かったにも関わらず、常に上位に位置し、阪神駅伝では 3 位以内を続け、郡市区駅伝では 3 部で優勝を果たしました。

転機となったのが、平成 15 年。待望の陸上競技場が陽光町に完成しました。10 月 25 日に盛大に行われたオープニングセレモニーでは、１００ｍの日本記録保持者である伊東浩司さんをゲストに招きトレーニングの指導も受けました。

ホームグランドを得たことで多くの活動ができるようになりました。特に小学生を中心とした層への普及活動ができるようになり、陸上競技場の完成と同時に陸上クラブを発足させました。当初は、数人だったメンバーも、5 年を過ぎた今では、30 人を超える大所帯となりました。更に、体協主催の子供居場所作りにも参加し、多くの小学生に基本動作を中心とした運動を指導しています。

この頃より中学生を中心とした競技人口も増え始め、競技場での練習や大会の効果もあり、徐々に競技力も向上してきました。最近では、県レベルで競える選手が増えてきており、これからが楽しみです。

また、毎年 4 月に行われる芦屋国際ファンランも、震災後、3 年間の中止を経て復活。再開時に 3000 人程度に減少した参加者も徐々に増えてきて、2008 年には大会最高の 8000 人を超えました。

この流れを次の 10 年につなげ、発展させていきたいと思っています。

オープンセレモニー

昭和22年11月設立

先人の熱意を引き継ぎ、幼稚園から大人まで幅広く活動

青少年の健全育成、心身の健全な発達、会員相互の親睦を図りながら、柔道の普及発展へ

昭和２３年、芦屋柔道協会が設立され、会長猿丸吉左衛門、副会長倉永勇、理事長久堀幸雄のもと順調に活動を開始しました。市民体育大会には、個人戦や団体戦が開催され、また昭和２９年から昭和３４年まで、高校対抗招待大会が行われました。昭和３６年に会長久堀幸雄、副会長寺田明雄、理事長徳尾野信夫による体制が発足し、少年及び大人の練習だけではなく、阪神柔道協会の昇段試験、兵庫県大学柔道大会、摂丹定時制高校柔道大会、阪神少年柔道大会に積極的に協力をしました。

昭和５０年代には会長徳尾野信夫による新体制が発足し、近畿中学校柔道大会を青少年センターに誘致され、また、芦屋の生んだ国際柔道の大先輩である猿丸吉左衛門先生の「皆さんも、立派な柔道人になられることを希望します。」という意志を受継ぎ、阪神少年柔道大会の個人戦６年生の部優勝者に贈られる「猿丸杯」を設立されました。徳尾野信夫先生の功績は多大であり、報徳学園教諭及び柔道部監督を勤めながら、兵庫県高等学校体育連盟柔道部委員、阪神柔道協会副会長、平成８年には芦屋市体育協会会長等歴任され、芦屋の柔道、兵庫県の柔道のみならずスポーツを愛する先生の熱意とご尽力により、芦屋柔道協会が発展してまいりました。

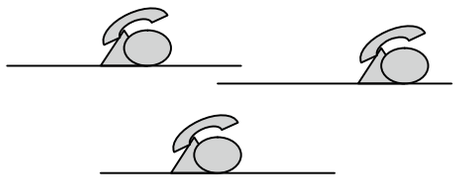
阪神・淡路大震災では体育館も被災を受け、柔道協会の活動場所がなくなりましたが、芦屋警察署のご協力を受け警察署道場において活動を再開しました。震災までの芦屋の少年柔道は芦屋柔道協会と芦屋少年柔道教室の２つのチームが切磋琢磨し活動をしていましたが、震災を機に新たな芦屋少年柔道教室として生まれ変わり現在に至っています。

現芦屋柔道協会は藤木崇博会長（全国高等学校体育連盟柔道専門部部長、兵庫県柔道連盟副理事長）を筆頭に副会長に瀧巖（芦屋大学教授）、川瀬茂良、岡本迪宏、顧問に徳島文勝（兵庫県柔道連盟副会長）、朝田紀明（兵庫県柔道連名顧問）、及び西村仁理事長（芦屋市役所）のもと、柔道を愛した先人の熱意を引き継ぎ、火・木曜日は午後６時から午後９時までと土曜日午後３時から午後６時までの週３回練習を行い、幼稚園から大人まで男女共幅広く活動しています。少年については、マルちゃん杯近畿少年柔道大会、兵庫県小学生学年別（5・6年生）柔道大会、兵庫県柔道整復師会少年柔道大会、兵庫県警察少年柔道大会、阪神少年柔道大会、兵庫柔道グランプリ等に参加し、大人については、兵庫柔道高段者大会、阪神段別個人選手権大会等に積極的に参加しています。また、各先生においては、審判講習会、形講習会の参加、指導、昇段試験の審査役員、及び、各種大会等の審判等幅広く活躍しています。

芦屋市の大会としては芦屋大学、芦屋警察署の参加により教育長杯から名前を変えた芦屋市長杯柔道大会を毎年体育の日を中心に開催しており、今年で第８回目を迎え、近年潮見中学校にも柔道部が誕生し、年々盛大になっています。

なお、現在前述の先生方をはじめ、芦屋少年柔道教室の指導をされている先生として出田好一（兵庫県警察柔道副主席師範）、福岡幸司(全日本柔道選手権４回出場)石角洋子(旧姓坂上)(バルセロナオリンピック銅メダリスト)を中心に兵庫県柔道連盟、阪神柔道協会並びに関係諸団体との連帯意識の高揚に寄与し、柔道の普及発展、青少年の健全育成、会員の心身の健全な発達、会員相互の親睦を図ることを目的としての活動を進めていきます。

水練学校の主体を明確に
特定非営利活動法人 芦屋水練学校を設立



創設から今日まで「国民皆泳」と「児童の水難事故防止」をテーマに活動、今年で６０回

芦屋水練学校は昭和二十四年、元オリンピック選手の高石勝男先生が提唱し、当時の芦屋市長猿丸吉左ヱ門氏がこれに快く賛同したことにより始まりました。

以来、「国民皆泳」と「児童の水難事故防止」をテーマに、今年で六十回を迎えます。

この間、卒業生が教師となって後輩を指導するという伝統を守って、今日まで無事故を続けて参りました。送り出した卒業生は合計千百六十九名を数えます。

しかしながら、この十年は少子化と夏季学習塾などの影響を受けて、水練学校も生徒不足やその結果の教師不足から、募集定員を定めなければならないこととなりました。

このため、入校希望の皆様にご迷惑をかけることが生じ、紙上を借りて深くお詫びを申し上げます。

一方、近年は児童の殺傷事件が多発して、水練学校としても対策として授業中の不審者入場防止や、教師に対する防犯訓練等を行うこととしています。事件多発の風潮にはいろいろな事由が挙げられていますが、その一つに、幼少期における社会生活の欠如への指摘があります。学習塾などが地域の長幼間の交流を妨げて、集団のなかで子供たちが自分の役割を認識することや、協調性を育むことをしていないということでしょうか。

芦屋水練学校では、卒業した中学生や高校生、大学生が子供たちを指導しており、指導者と生徒という関係のなかでとても楽しく練習しています。

また、卒業しますと水友会会員となり、ここでは小学生から米寿くらいまでの幅広い人間関係を経験します。これはとても大事なことなのだと再認識するような十年でもありました。

さて、芦屋水練学校は永らく芦屋市が主催していましたが、近年は私ども芦屋水友会が主催しておりました。

ところが、芦屋水友会は任意団体であり、法人格を持っていません。水練学校が時代にあわせて今後も伝統を継承発展させるためには、その責任の主体を明確にすることが必要であると考え、平成十六年に「特定非営利活動法人芦屋水練学校」を設立し、現在ではこの法人が芦屋水練学校を主催しています。

設立にあたっては、その目的を「この法人は児童等に対して各種泳法（日本泳法、競泳）の指導に関する事業を行うとともに公営プール場の運営管理に関する事業を行って、これを廃れつつある日本泳法（立ち泳ぎ、平泳ぎ等）の効用を広く市民に再認識させる拠点とし、ここにおいて随時これらの指導を行うことによって日本泳法の継承並びに振興を図り、もって水難による死亡事故の減少に寄与することを目的とする。」と定め、今後一層精進して参りますので何卒宜しくご支援の程お願い申し上げます。

創生期を懐古して

自然に融合しながら豊かな心を育み、心身の鍛錬と健康の増進を。

芦屋市体育協会の創立６０周年を心からお慶び申し上げます。

芦屋登山会は会則に「登山を通じて会員相互の親睦を図り、登山技術の研究及びその向上を図る事を目的とする。」を掲げて、市が毎月発行の「広報あしや１日号／市民のひろば」とホームページに事業（行事）計画を掲載し、参加を求めた一般市民を含めた「市民ハイキング」と、会員だけの「研修ハイキング」や「登山」を、それぞれ月１回開催している。自然に融合して豊かな心を育みながら参加者相互の親睦を深め、心身の鍛錬と健康の増進を図りながら市民体育の振興と発展に寄与するように努め、また安全面では、無線機の活用等常時安全に気を配り活動している。

創立の主旨、草創期、その後の変遷については、芦屋市体育協会５０周年記念誌に詳しく紹介されているので割愛し、その後の１０年の歩みを以下に記す。

■芦屋登山会１０年の歩み

開催年	実施事業の回数	総参加者数	主な事業
１９９９年（平成１１年）	２５回	７８８人	■創立５０周年記念登山／富士山　■秋山登山／三瓶山
２０００年（平成１２年）	２５回	７８３人	■夏山登山／木曽駒ヶ岳　■秋山登山／大谷嶺
２００１年（平成１３年）	２５回	６９３人	■夏山登山／鹿島槍ヶ岳
２００２年（平成１４年）	２５回	７１９人	■春山登山／赤鬼兎・経ヶ岳　■夏山登山／鉢ノ木岳
２００３年（平成１５年）	２５回	７３３人	■夏山登山／四国剣山
２００４年（平成１６年）	２５回	７０７人	■創立５５周年記念登山／蒜山三山
２００５年（平成１７年）	２６回	７４３人	■春山登山／久住山　■夏山登山／加賀白山
２００６年（平成１８年）	２５回	７６２人	■夏山登山／笠ヶ岳　※天候不良で中止
２００７年（平成１９年）	２６回	６８５人	■夏山登山／大山
２００８年（平成２０年）	２５回（計画）		■夏山登山／木曽駒ヶ岳

以上、今年までの１０年間の事業を纏めてみましたが、芦屋市体育協会の創立６０周年記念の年も人間で言うなら還暦のときでもあります。装い新たに奮い起つのもよいでしょう。温故知新と言う言葉もこんな時のものと思います。

源氏物語が作られて千年というのには較べようにもないが、短くともこの間よき事象は確実に残していきます。

我々も来年は創立６０周年の年を迎えるが、自戒をこめて言うなら、他者への鈍感と自己愛との偏重だけは避けて、これからも共に会の発展に努めたいものです。

「改革、改善、意気込み」をテーマに前進を！

野球の普及と体育文化の発展を目的に芦屋市民のスポーツ広場作りの一役を。

平成十年、阪神軟式野球連盟主催の大会を芦屋野球協会が主管支部として、春の優勝大会、秋の選手権大会を芦屋南高校(現芦屋国際高校)潮見中学校、潮見小学校、川西運動場、宝塚市民スポーツセンターの五会場で開催した。

平成七年、思いもよらぬ阪神淡路大震災後、野球協会当時理事長の片山文秀（故人）が既に掲げていた「改革と前進」の組織テーマを協会役員やチーム全員による意識改革への再挑戦が始まった。

翌平成十一年、第十九回「高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会」兵庫県決勝大会を芦屋中央公園野球場にて開催した。阪神淡路大震災から四年目、復興途上の状況のもと協会員皆が一つになり「改革、改善、意気込み」の組織テーマに沿って前進し、無我夢中で協会員は、開会式から続く熱戦に次ぐ熱戦の二日間の日程を無事成し遂げた。

平成十二年には芦屋野球協会五十周年記念式典を芦屋市民センターで、多くの行政各位、体育協会、兵庫県軟式野球連盟役員ご臨席のもと盛大に開催された。年間試合数は１８９に伸びはしたものの、チーム数は４２でまだ緩やかな状態だった。

平成八年の３５試合と比較すれば復活とも言えるが、チーム所在地が芦屋市以外の申請がまだ多くあり、震災前のチーム数の６０％に達していなかった。

平成十五年、チーム数が漸く５０になり大会数も年間四大会。年間試合数は２７０試合前後にまで回復し、徐々にではあるが若者たちの元気な声と汗の匂いが蘇ってきた。

兵庫県大会を二年に一度開催しなくてはいけない芦屋野球協会にとって最も大切なことは、改革による前進であり改善である。社会人の大会を開催するには会場が中央公園野球場しかなく学童の大会を開催するには開会式という大きな行事がたちはだかる。震災後十年の平成十七年、第二十五回「高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会」兵庫県決勝大会が中央公園野球場、川西運動場、西宮市浜甲子園球場の三会場で開催し、芦屋代表の潮見スターズが見事初優勝を飾り、八月に茨城県水戸市で行われた全日本学童軟式野球大会に兵庫県代表として出場した。この十年の間に芦屋野球協会学童部に所属していた二選手が現在プロ球団に在籍している。

小学生主体の学童部、中学生の少年部、高校・大学生及び社会人で構成する一般の三部門に分けて、それぞれの分野で活躍する選手達の技術向上も然る事ながら、地域の発展とスポーツ振興に寄与するために協会員一同が野球を通じての協会運営に参加している。

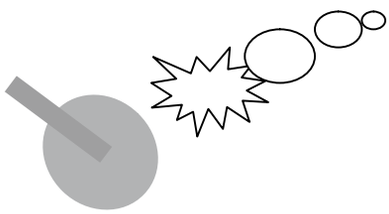
平成十九年秋に完成した潮芦屋運動場を会場に新たな歴史が始まり、アマチュアスポーツとしての正しい野球を普及し、健全な体育文化の発展に資する事を目的としながら、今後共に芦屋市民のスポーツ広場作りの一役を担って行けるよう頑張ります。

昭和25年11月設立

芦屋市卓球協会

昭和28年5月設立

「光る汗、輝く瞳、今青春」をモットーに



生涯スポーツとして卓球の普及活動と共に競技力の向上に力を入れていきたい。

体育協会設立６０周年おめでとうございます。芦屋市体育協会は特定非営利法人として新しい発展の歴史を歩み続けています。

花木会長はじめ関係者の皆様のお働きに心から敬意と感謝を申し上げます。

現在、国も地方自治体もスポーツ振興に力を入れています。スポーツ立国やスポーツ省の新設という声も聞かれます。

芦屋市もスポーツ振興基本計画・後期５ヵ年計画（２０年から２４年）を作り、スポーツ・フォー・エブリワンを目指しています。

私たちは時代を先取りして、主体的に活動的にスポーツライフを過ごし、健康増進、生きがいや友情に満ちた豊かな生活の実現に向け活動してきたことを自負しています。

卓球協会は昭和２８年に設立され、今年で５５年になります。順調に活発に運営されてきたと考えています。具体的な活動としては、市内に３０人から５０人余のメンバーの６クラブがあり、夫々しっかり自主的に活動しています。協会としても定期的に合同練習会を開催しています。小学校の子供たちのキッズ卓球教室も理事の皆さん方の協力のもと４年目を迎えています。

また競技力の向上とクラブ間の交流を目指して、年に５回の市民大会と、４回のオープン大会を芦屋市立体育館で開催しています。特に１０年前から始めたオープン大会には約３００人の参加があり、大学生や社会人、そして中国のプロ選手の参加もあってレベルの高い大会になっています。大変よい刺激になっています。市外の大会にもオール芦屋チームとて積極的に参加しています。

コミスクの卓球クラブも盛んで、老若男女、初心者や高齢者の参加もあり楽しく運営されています。理事長はじめ役員の皆さんが献身的に協力していただいていることが大きな原動力になっています。

これからも「光る汗、輝く瞳、今青春」をモットーに、生涯スポーツとして卓球の普及活動と共に競技力の向上に力を入れて行きたいと考えています。芦屋市体育協会の益々のご発展と共に、卓球協会も充実していくように頑張ってまいります。

今後ともご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

キッズ卓球教室

キッズ卓球教室

ママさん剣士が、子どもたちと一緒に稽古。

美容と健康をモットーに！

消防教室、秋祭りパレードなど地域の行事にも参加しています。

芦屋市体育協会創立６０周年おめでとうございます。

芦屋剣道協会は昭和２８年（１９５３年）に発足し、第１回の市民大会を芦屋警察署の道場で開催したと、当会の生辞典で、現在も元気に少年剣道を指導してくれている芦原先生から聞いております。

当初は、現在の川西運動場の一角にあった木造の柔剣道場で稽古に励んでいました。

数えてみれば本年で５５年となり、芦屋市体育協会発足の５年後に生まれたことになります。

現在も活動できていることは、これもひとえに市当局、教育委員会、芦屋市体育協会、芦屋警察署等の皆様方のご支援ご協力の賜と、深く感謝しております。

ここ１０年の歩みは、少子化の中、会員も減少することなく、

１　芦屋東ライオンズ少年剣道大会
２　阪神少年剣道練成大会
３　父母の会主催少年剣道大会

上記の３大会を柱に、各種の大会に参加、活躍し、芦屋健児の名を轟かせております。

平成１９年４月に、発足以来、当会の中心としてお世話頂いておりました天王寺谷会長が、突然死去され、会員一同、落胆消沈致しましたが、先生の「志」―青少年の健全育成―を継ぎ、現在に至っております。

現在会員数、大人５０名、少年９０名を擁し、特に最近はママさん剣士が増え１２名となり、美容と健康をモットーに子供達と共に頑張っています。

また芦屋市少年消防クラブも少年剣士が中心となり、出始式・秋祭りパレード・消防教室・防火広報等への参加活動を通じて、市民の防火意識向上の一旦を担っております。

今後とも皆様方のご支援を得ながら志を忘れることなく頑張っていきたいと思います。

昭和28年3月設立

文化の日に、芦屋市民文化賞を受賞

（平成１６年１１月３日 文化の日）

将来に向かって協会の発展を

昭和２４年５月２０日軟式庭球部創設される。

昭和２９年６月芦屋市軟式庭球協会として創設され、兵庫県連盟へ芦屋クラブとして登録し、芦屋市体育協会へ入会することとなった。

この経緯が、現在の芦屋市ソフトテニス協会として５０数年存続し、芦屋旗争奪兵庫県都市対抗大会が未だ苦難を乗り越えて、今後の発展に、この大会を将来に繋げる一つの原動力になっていると思われます。

近年、市内に於けるテニスコートの面数は減少にあり、反面テニス愛好家は増加してきております。当協会は芦屋市立体育館の前に二面のコートがありましたが、体育館の建設により、ここから岩ヶ平に二面のコートを新設、そちらへ移動し、そこを本拠地として、この平成１６年９月まで活動、その後、市立芦屋高校で平成１９年２月末まで練習を進めてまいりました。

昭和４６年の秋も終わりに近い時期から昭和４７年５月に岩ヶ平のコートで初めての婦人テニス教室を開催することとなった。昭和５３年７月南芦屋浜に東西二面ずつのコートが建設された。この時期２～３年は、底辺の拡大を図って積極的にその展開を進めてきた。昭和５３年、室井会長が、第３３回国民体育大会（長野国体）の軟式庭球監督として兵庫県が優勝することとなった。昭和５４年には他に４クラブが誕生し、協会の傘下となった。

当時は、若い人たちの勧誘をすすめ、一流の大学プレイヤーなども沢山入会しました。今は、やはり老齢化が進み、私どもとしては、今後若手の育成に取り組むことに専念する必要に迫られてきています。

平成７年１月１７日阪神淡路大震災により、岩ヶ平テニスコートには亀裂が入り使用不能となり、芦屋公園コートの１０面には仮設住宅が建ち、コートとしては跡形もなくなり悲惨でした。その後、岩ヶ平テニスコートは、我々協会員で補修復旧し、平成７年７月１６日にコート開きを行いました。

芦屋市ソフトテニス協会が主催する県下都市対抗大会は、平成７年度は中止となりましたが、平成８年より３年間は、明石コートを借りて、大会を開催いたしました。震災後４年ぶりに芦屋コートで実施しましたが、これも関係各位のご協力によるもので感謝いたしております。

当協会は、平成１６年１１月３日の文化の日に、芦屋市より、平成１６年度芦屋市民文化賞を授与されました。また平成１８年１２月１７日に、財団法人日本ソフトテニス連盟より、優秀クラブとして表彰を受け　盾を授与されました。

震災後は、復興復旧については、当然住宅などの建設が優先され、一時は岩ヶ平コートも私有地ということで、平成１６年には返却しコートの無い協会となりましたが、平成１６年９月から平成１９年２月までは市立芦屋高校のコートを借り、その後潮芦屋テニスコート二面を１０年借り受けるということで今日に至っております。

そして今般、創立５０周年をつつがなく迎えることができ、後につなげたいと一同頑張っておるところです。

復活した奉射事始祭が、年中行事に

少年弓道人の育成に寄与に力を注ぐ

芦屋市体育協会創立５０周年を祝った平成９年から早や１０年が経ち、創立６０周年を迎える事となった歴史の中で、芦屋市弓道協会にとってこの１０年の間には非常に大きな出来事があったことを特筆しなければならない。

それは、芦屋市弓道協会第三代会長で、平成２年から平成７年までの６年間、芦屋市体育協会会長も併せて勤められた竹内　修会長が平成１３年５月に逝去された事である。

竹内　修先生の日本弓道会に残された多大の御功績を讃え、如何に弓道界の重鎮であられたかについては別の紙面で顕彰されるものとして、当市に於ける功績は、当協会の会員から常に多くの兵庫県弓道連盟の中枢部の役員たる人材を育成して送り込み、県連盟の中心的役割をずっと果たしてきたこと、青少年弓道人の育成には市立芦屋高等学校並びに県立芦屋高等学校の弓道部設立に寄与し、それぞれの弓道部の高校総体や国民体育大会での活躍を導き出された。

また、神戸市と共に芦屋市には古来外国人居住者が多く、それら外国人にも広く弓道を普及振興して多くの外国人弓道家を育成し、芦屋市を弓道国際化の魁の地として世に知らしめたのも竹内会長であった。これらの事は５０周年記念誌に既に紹介済みであるが、慈父のような偉大な師を失った我々協会員にとっては正に「巨星墜つ」で悲傷にうち沈むばかりであった。しかし、先立つ平成１１年に範士になっておられた林　文夫先生が第四代会長に就いて下さり、竹内先生の御功績を偲び、御遺徳を慕いつつ一致団結して協会の更なる発展飛躍を期すべく林会長が献身的に先導して下さっている。

協会の活動の内、この１０年間の中で、それまでは行っていなかった行事が出来たので紹介します。「西宮神社奉射事始祭」と言い、１９９５年（平成７年）１月２日に第１回が行われたが、その２週間後に阪神淡路大震災が起きて、以後２０００年（平成１２年）まで中断されてしまったのである。２０００年以後は毎年１月２日に年中行事の様になって当協会員が奉射している。内容は林会長の墓目の神事に始まり、大的での一ツ的射礼、４名位に依る持的射礼等を奉射するものである。震災後に復興した際、広田神社でも奉射の要望が出て、２０００年（平成１２年）は１月３日に行われたが、翌２００１年（平成１３年）からは１月２日に西宮神社が午前、広田神社が午後に行うようになって、以後ずっと毎年の年中行事として行われるようになり、観客の方々も年々増えて来ている。広田神社の方は「広田神社開運大的御弓始め神事」と言う名称で内容は西宮神社と同じである。

日本のトッププレヤー達が集合し、練習

芦屋市テニス協会は、現在、傘下に１１倶楽部、１，７５１人の会員で組織されている。あの忌まわしき阪神淡路大震災で協会傘下の各倶楽部の施設は大きい損害を受け、中でも芦屋国際ローンテニスクラブは、その敷地が市有地であつた為、震災被災者のための住宅地として収容され、平成１１年４月まで４年数ヶ月の長きにわたって休業を余儀なくされた。幸い芦屋市当局の暖かいご理解とご支援により、コートは平成１１年４月に復旧、クラブハウスもその翌年再建された。体育協会５０周年誌が発行された時はまだ再建を目指して苦闘していた最中であつた。

この芦屋国際ローンテニスクラブの復活後のテニス協会の活躍は目覚しい。先ずジュニアーの育成である。かつて芦屋国際ローンテニスクラブは、昔、世界を舞台に大活躍された大先輩の熊谷、清水両選手の名を冠したＫＳ杯ジュニアー戦を主催してジュニアー育成に注力していたが、兵庫県は男女共に日本を代表する多くの名選手がジュニアー時代を過ごし、巣立っていった、いわば日本のテニス界の苗床である。当協会は

その伝統を受け継ぎ、毎年兵庫ジュニアフェスティバルを主催、有力選手の育成に力を注ぎ続けている。

次はシニアの貢献である。芦屋と言えば芦屋グランドベテランと言われるほど日本国中有名になったこのイベントだが、芦屋国際ローンテニスクラブは創立以来毎年欠かさず全国のシニアを対象に芦屋グランドベテランテニス大会を主催し、日本全国はもとより､海外からも含め約３００名の参加者を得て、盛大な大会を続けている。震災後のクラブの休業でこの大会も中断の止む無きに至ったが、平成１２年秋、６年振りに復活、本年４８回を迎える。この大会は男子６５歳、女子６０歳以上、９０歳以上の参加者も混じって全国のシニアの最大の楽しみとして歓迎され続けている。芦屋市長も名誉会長として毎年歓迎の挨拶をたまわっている。

この外芦屋国際ローンテニスクラブ復活を記念して近隣のシニア対象に芦屋シニアオープントーナメントを始めたが、これも今年で第９回を迎えるが、段々名が広まり､遠方からの参加者も増えつつある。

一般アマチュアプレーヤーだけでなく、プロを含めた日本のトッププレーヤーの育成にも貢献がある。芦屋グリーンランドテニスクラブでは日本デ杯チームの竹内監督が主催する特別英才教育プログラムがあり、日本のデ杯（男子）フェド杯（女子）チームを支えるトッププレーヤーを育てている。近年では不田涼子、中村藍子がここで育ち、男子も含め、日本のトッププレーヤー達がここに集まって練習、研鑽している。テニス王国兵庫県にあって、芦屋国際ローンテニスクラブが創立３０周年を迎え、それらを抱える当協会は益々充実、今後も発展を目指して行く。

平成２０年度　行事計画

日　程	大会名称	担当クラブ
４月	第９回芦屋シニアテニス大会	芦屋ローンテニスクラブ
５月	市体育協会会長杯ミックスダブルス	チーム龍
８月	市長杯男子ダブルス・女子ダブルス	芦屋翠ヶ丘テニスクラブ
９月	第４８回グランドベテランテニス大会	芦屋ローンテニスクラブ
１０月	レッツトライエンジョイテニス	芦屋グリーンランドテニスクラブ
１月	１０歳以下Ｊｒテニストーナメント	カルチャー＆スポーツアソシエイツ 芦屋ローンテニスクラブ
３月	市教育長杯Ｊｒテニストーナメント	六麓荘テニスガーデン 芦屋ローンテニスクラブ

空手道教室の活動が活発！

少子高齢化や指導者の高齢化が課題、一方で新たな教室が活動

昭和３１年に発足した芦屋空手協会も平成１５年に５０周年を迎え、１１月に創立５０周年記念芦屋市スポーツ少年団空手道選手権大会を芦屋市立体育館・青少年センターに於いて挙行し、同日ご来賓各位及び関係者多数参列のもと、ホテル竹園に於いて盛大な５０周年記念式典及び祝賀会を執り行い、今後の更なる発展と飛躍を全員で祈念いたしました。

芦屋市立体育館・青少年センター、武道場等で週４回の練習を行っていますが、練習生は殆どが小学校低学年を主体とした少年であり、地区スポーツ少年団の活動に終始する傾向で、平成１３年より朝日ヶ丘空手道教室及び糸東流五誓会道場の少年団も一緒に芦屋市スポーツ少年団空手道選手権大会を実施し、本年で第８回を数え、毎回１００名から１５０名の選手が参加し、毎回充実した成果を収めています。

なお平成１７年度より芦屋市民体育大会体育協会会長杯争奪も加わって、この大会を更に意義深いものとしています。

少子高齢化の波は､当協会に於いても避けがたく、指導者の高齢化も大きな問題となりつつありますが、日本体育協会の公認指導員及び認定員の資格取得研修会に積極的に参加し、指導員の殆ど全員が資格を取得している現状です。

なお高齢者を対象として、平成１２年にスタートし、その後毎年行われている日本体育協会主催の日本スポーツマスターズ空手道大会にも師範及び指導員が積極的に参加し、優秀な成績を収めています。

平成１２年､東京武道館に於けるプレ大会では高橋、吉永、津田の三師範が、平成１３年、宮崎県に於ける第１回大会には高橋師範が参加しています。

当協会発足以来の年間行事である毎年２月の六甲越え有馬行きの寒稽古及び８月の夏季合宿も、父母会各位の協力を得て着実に行われています。

最近の傾向としては、コミスク活動「スポーツクラブ２１」に於ける空手道教室の活動が活発で、平成１２年に発足した朝日ヶ丘空手道教室は、今年で８年目を迎え、約３０名の練習生が週２回の練習に励んでおり、本年５月及び６月より、精道小学校及び宮川小学校でも活動開始の運びとなっています。

復活の兆し

バランスのとれた バレーボール協会へ

芦屋市体育協会設立６０周年、加盟団体の一員として大変喜ばしいことで心よりお祝い申し上げます。

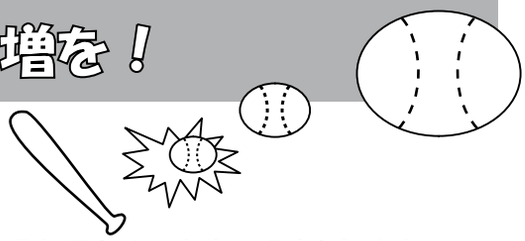
わたくしどもバレーボール協会は設立５０周年です。昭和３３年に産声をあげて以来これまで各方面のみなさまの多大なご支援とご協力を得まして半世紀の節目を迎えることができました。厚く御礼申し上げます。５０周年を祝って盛大にと思いましたが、予算などの都合もあり残念ながら特別の記念行事がもてず、今年度の各行事に「芦屋市バレーボール協会設立５０周年記念大会」を付記して例年通り実施することになりました。

さて、近年の本協会状況報告ですが、阪神大震災にはじまり、全日本バレーボールチームの国際試合の成績不振、そして何よりわが国の少子化などバレーボール界にとってマイナス要因が重なり、小、中、高、一般、そして家庭婦人など各部門でのチームの減少で往時の通りの大会を開催することができなくなっています。また、協会を大きく育ててくださった初代の本郷公会長、二代目の南澤大六会長、設立時より協会のために尽力された国米昭三さん、黄尾英夫さん、表冨美子さんが他界され、協会にとって多くの貴重な人材を失ったことも要因の一つかとも思います。しかし、暗い話題ばかりでなく、一昨年あたりから〈子どもの居場所づくり〉、〈体協フェスタ〉など教育委員会や体育協会のご尽力、それに全日本チームの北京オリンピック出場決定等もあってか、小、中、高生が戻ってきて復活の兆しがみられるようになってきています。家庭婦人主体の協会ですが、小学、中学、高校、一般社会人それにお父さん方も多数参加のソフトバレーボールなどバランスのとれた協会にするよう役員一同頑張っています。

平成１９年度　事業計画

月　日	行　事　名	会　場
４月１８日	総会（理事会）	市立体育館
５月２３日	審判講習会（９人制）　受講者２２名	市立体育館
５月２７日	第３３回　本郷杯　家庭婦人選手権大会　６チーム参加	市立体育館
	審判講習会（ソフト・バレー）受講者１９名	宮小体育館
６月１７日	ソフトバレーボール大会　１８チーム参加	市立体育館
７月８日	体育協会長杯　家庭婦人前期クラス別リーグ戦大会　７チーム参加	市立体育館
７月２０日	常任理事会	市立体育館
８月１８日	常任理事会（５０周年記念事業）	市立体育館
８月２６日	第１９回市長杯（総合男女６人制）バレーボール大会 男子１４チーム、　女子１０チーム参加	市立体育館
１０月７日	体協フェスタ　第８回市民ソフトバレーボールの集い　１６チーム参加	市立体育館
１２月９日	家庭婦人後期クラス別リーグ戦大会　８チーム参加	市立体育館
１月６日	第２５回　むつみ杯　　参加者２９名 ／ 常任理事会（５０周年記念事業）	市立体育館
３月１０日	常任理事会	市立体育館

参加しやすい運営体制でチームの増を！



会員相互とその家族の親睦と健康をモットーに。

阪神淡路大震災により平成７年度から休会していた活動を、当時の会長と理事長（現会長）を中心に休会前の参加チーム等に声をかけ、結果，平成 11 年５月に６チームによる芦屋市長杯トーナメント大会を開催し、これを皮切りに活動の再開をいたしました。同年６月には芦屋市議会議長杯を、10 月には市民体育大会を，11 月にはソフトボール協会長杯を開催しました。

平成 11 年度から平成 19 年度までの芦屋ソフトボール協会の登録団体は７～９団体で推移していますが、活動については４月から 11 月の間に中央公園野球場において年６回のトーナメントによる、社会人のソフトボール大会を実施しています。

また，大会とは別に、平成 17 年度には芦屋市で開催された障害者のスポーツの大会である「ゆうあいスポーツ大会」のソフトボール競技の運営補助や、平成 18 年度には阪神間商工会議所青年部会のソフトボール大会の運営補助の活動なども行なってきました。

一時期、18 あった登録団体が、現在は８団体に減少したことから、登録団体を増やすために、チームの構成については成人であれば男女を問わず、ユニフォームの着用については強制しないでできるだけ揃える程度とするなど、また、大会参加についても年度途中でも受け入れも行い、参加しやすい運営体制をとっています。

今年度からは、年間行われる６つの大会の参加状況や成績に点数をつけ、年間最優秀チーム及び優秀チームの表彰を行う等の新たな試みを行い、大会の運営における審判については登録団体員が相互に行うなど技術の向上を図るとともに、協会の目的である「会員相互及びその家族の親睦と健康に寄与すること」をもって今後も運営を進めていきます。

■平成 20 年度登録チーム

芦屋ロッキーズクラブ，精友クラブ，芦屋市役所ソフトボール部，ＡＢＣオールキッズ，チーム　Ｓａｉｈｏｊｉ，からとソフトボールクラブ，ＺＯＲＯ，海技大学校

■平成 20 年度大会等スケジュール

４月　芦屋ソフトボール協会長杯春季ソフトボール大会
５月　芦屋市長杯ソフトボール大会
６月　芦屋市体育協会長杯ソフトボール大会
７月　芦屋ソフトボール協会長杯夏季ソフトボール大会
９月　芦屋市議会議長杯ソフトボール大会
10 月　芦屋ソフトボール協会長杯秋季ソフトボール大会
11 月　総合練習

他者優先の精神をモットーに

芦屋でサッカーをしよう！！
～ＡＮＹＴＩＭＥ・ＡＮＹＷＨＥＲＥ・ＡＮＹＯＮＥ＝

芦屋市サッカー協会は現在３２チーム１２００人余りの会員を抱える芦屋市体育協会の中でも最も大きな種目協会の一つです。
創立は１９６８年、芦屋市体育協会が６０周年を迎える今年４０周年を迎えることになります。

サッカー協会では、１０年前３０周年の後、「プレヤーズファースト」をモットーに各種委員会の充実を図る現在の体制作りに取り組みました。年代別の委員会を１種(社会人)、２種（Ｕ－１８）、３種（Ｕ－１５）、４種（Ｕ－１２）、シニア（Ｏ－４０）と充実させ技術委員会、審判委員会、総務委員会と各種委員会に理事を配する現在の理事会制に取り組みました。阪神大震災の後芦屋で始まった「芦屋フットサルリーグ」はそれまで小学生のサッカーが中心で他に中学校、高校のクラブ活動しかなかった芦屋のサッカーシーンに初めて社会人のサッカーをフットサルという形で発足させることができました。遅れること２年、芦屋市社会人リーグ、芦屋シニアナイターリーグを主催、後援することにより、芦屋であらゆる年代の競技会を整えることができ実質的に各種委員会が始動し始めたのです。

またその中で芦屋サッカークラブという芦屋で初めてシニアから４種までを要した多世代型のクラブが発足したのも見過ごせません。

４０周年を迎えたサッカー協会では、５０周年を目指しこれまでの１０年で整えた各年代の委員会をより充実させるために技術委員会、審判委員会を活性化させ若い年代の育成強化に真剣に取り組み芦屋のサッカーを兵庫県のトップレベルにすること芦屋出身のＪリーガーや日本代表選手育てることを目指します。また審判の育成にも力を入れ選手だけではなく協会の質の向上を目指します。質の向上のもう一つの課題としてマナー向上があります。体育協会の一員として市民スポーツの普及を努めるなかでスポーツマンシップンの啓蒙を心掛けてきました。法律や規則にする前にマナーとして「他者優先の精神」をモットーにサッカー協会の会員が芦屋市民のマナー向上にリーダーシップをとることを理想とし会員相互に心掛けていくことがスポーツの大きな役目の一つだと思っています。

サッカー協会はこれらの目標を持って体育協会とともに１０年、２０年と発展していきたいと思っています。

昭和43年11月設立

バドミントンに来る子どもたちの姿は、私たちの喜び。

― そして ―

８３歳のアスリートを見て、生涯スポーツとして楽しめることに確信。

芦屋市バドミントン協会は平成20年に協会40周年、レディスクラブ35周年を迎えます。

レディスクラブには 35 年前、結成当初からの会員が 11 名、30 年前からの会員が 7 名、最高齢者 83 歳を筆頭に 20 歳代まで 120 名が在籍しています。

平成 10 年以後、当協会の構成は震災の影響でレディス 1 クラブが解散し、4 レディスクラブと 1 男女混合クラブの 5 クラブでしたが、残念ながら 19 年度を最後に混合クラブが休部してしまいました。男子会員は今年度より個人登録を認め、10 名程の人が登録しています。

主な活動は初期から変わることなく会員相互の親睦、健康な体力づくり、楽しみながら技術の向上（強くなるための練習）を目的としています。

バドミントンは非常にハードな個人競技のスポーツですので生涯スポーツとしては不向きであるように思っていましたが、８３歳を筆頭に練習を続けてこられた人たちを見るにつけ、この 10 年間は生涯スポーツとして楽しめるものと確信いたしました。

次に、協会主催大会は、子どもの２大会、レディス２大会を含め７大会を行っています。子どもの大会が永く続けられているのは会員による長年の指導が宮川小学校、打出浜小学校等で週１・２回続けられている事が大きく、又、体育協会主催の子どもの居場所づくりにも積極的にかかわり青少年育成にも力を入れています。このような指導の成果は大きく、子どもの大会に賑わいが見られます。居場所づくりにも毎回３０数名の子どもたちが楽しみにきている姿は当協会の喜びでもあります。子どもたちが、中学、高校と継続して行える場ができればと願っています。

レディスクラブはおかげさまで全国から大会の案内をいただける様になりました。対外試合も多々あり、選手たちは年々増える試合に積極的に取り組み、練習量も増加していますが、競技力向上に一層の努力を惜しまず取り組んでいます。また試合に出ない人達はクラブを大切に思いながら楽しく練習をし、新人たちは選手を目標に、あるいは楽しみを目的にとそれぞれ思い思いの練習を行っています。協会ではそれ等すべての会員を応援しています。

協会の役員たちは皆が楽しめる大会をと、今尚知恵を出し合っています。

１１月に開催する協会４０周年、レディスクラブ３５周年の式典には、会員全員参加を目指し大いに盛り上げられるよう役員・会員一同力を合わせ、バドミントン協会の益々の発展と団結心強化をはかりたいと願っています。

心身の鍛錬と人間形成を目的に

積極的な奉仕活動の取り組みで、地域や社会に役立つ「人づくり」を

芦屋市少林寺拳法協会は、昭和４７年４月に発足しました。少林寺拳法の思想と技法を通して心身の鍛錬と人間形成を目的に、青少年の健全育成に向けてスポーツ活動を進めようと、当時体育協会会長の久堀幸雄氏に相談し、体育協会に加盟しましました。新設された体育館武道場での練習は週３回行い、地域の大会や県大会にも積極的に参加しています。

加盟から２年後の昭和４９年５月には創設３周年記念大会を開催しています。１０周年、１５周年についても、芦屋市長をはじめ県会議員、関係者の方々をお迎えし、盛大な記念祭を開催してきましたが、平成７年に予定していた支部創設２５周年記念祭は、阪神淡路大震災により断念しています。

これまで芦屋市少林寺拳法協会は、地域の大会をはじめ県大会、２府４県の関西大会、全国大会で優秀な成績を収めています。昭和５２年に開催された関西２府４県の大会、同年、日本武道館で開催された全国大会で、豊島盛行三段・竹之内慶二三段が優勝し、昭和５５年の国際大会に於いても準優勝する実績を有しています。

平成３年の県大会では、４種目を制覇すると共に、同年、奈良県で開催された全国大会で女子三段以上の部で、西尾真寿美三段・山下みづ穂二段が優勝し、平成４年には兵庫県スポーツ優秀選手賞を受賞したことが、新聞で大きく報道されています。さらに平成９年９月に、日本武道館で開催された国際大会に、橋本りさな二段・西村明子二段が出場しています。

このような実績は今日でも受け継がれており、平成１６年名古屋ドームで開催された全国大会に、二段の部で、炭原悠太初段・村尾賢哉二段が、中学生の部で、大迫浩貴初段・竹田陸初段が、夫婦の部で、高山範雄四段・高山久美二段の、６名が出場しています。

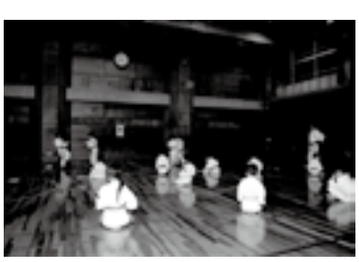
また平成１８年に開催された「のじぎく兵庫国体」のデモンストレーション大会では、中学生の部で、小西翔太初段・村上弘樹初段が、少年の部で、有田拓海・村上豪拳士が出場しています。

平成１８年８月、芦屋支部は永年の功績が讃えられ、日本武道館より少年武道優良団体表彰を受賞しています。

平成１９年の県大会では、小西翔太初段・村上弘樹初段が、少年部で、有田拓海・村上豪拳士が最優秀賞を獲得し、全国大会への出場を果たしています。

さらに平成２０年の県大会では、小学生低学年の部で小椋シオン・皆川卓也組が敢闘賞、小学生女子の部で、岩田萌花、尾崎奈々子組が敢闘賞を獲得しています。

このほか芦屋市少林寺拳法協会は、芦屋川の清掃をはじめ浜風の家の清掃活動（平成１８年５月）、芦屋浜の清掃活動（平成１９年６月）、社会福祉施設喜楽園の清掃活動（平成２０年６月）などの奉仕活動を積極的に取り組み、社会に役立つ「人づくり」に努めています。



大会に向けた練習

兵庫県大会

兵庫県大会

昭和46年4月設立

『特定非営利活動法人　芦屋ラグビーソサエティー』を設立

芦屋市体育協会創立６０周年を共に迎えられること、傘下団体として大変喜ばしく思います。

さて、５０周年から６０周年に至るこの１０年、体育協会にとっては任意団体から特定非営利活動法人への移行、芦屋市スポーツ施設の指定管理等かなり変化のあった１０年だと思われます。
芦屋ラグビーソサエティーにおきましても同様に大きな変化の１０年であったと思います。

１０年前、まだ震災の傷跡が残る中、ようやく屋外の運動施設が復旧しこの芦屋を活動の拠点に再出発を切りました。当時は芦屋ラグビー協会の名称で文字通り各傘下団体が寄り合っただけの任意団体でした。横のつながりも希薄で各団体が内ばかりを見た運営を行っていました。

日本のラグビー界には、この手の単独チームが非常に多く、それらはクラブという位置づけをされてはいるものの、欧米型の地域に密着したスポーツクラブとは程遠いものであり、社会的な責任もなく、メンバーの興味が他へ移れば簡単に解散してしまうような同好会的なチームでしかありません。当時、各団体代表が集り、この幼稚園児から８０歳に至る会員が存在し生涯スポーツとしてラグビーに取り組める人的環境、加えて芦屋総合公園の完成も間近に控えた活動環境を生かし、いかに社会的に認知される組織へと移行できるかについて議論を重ねていました。

そして５年前、法人化に踏み切り『特定非営利活動法人　芦屋ラグビーソサエティー』を設立。ラグビーを介した青少年および指導者の育成、地域に根差した社会スポーツ活動の実践を幹とし毎年１つずつ事業を増やしながら現在に至っております。２年前、教育委員会から声を掛けていただき、子どもの居場所づくりスポーツクラブに参加しタグラグビーを指導しておったところ、タグラグビーの指導依頼が来ました。その依頼元はなんと兵庫県サッカー協会で、８歳以下の子供達に月変わりで色々なスポーツを体験させると言う事業でした。思わぬところからの依頼で我々は眼から鱗、こういった展開を期待しての NPO 法人化であったことを思い出させてもらった出来事でした。NPO 法人の横のつながりや情報交換はインターネット社会も相まって非常に密なもので、今後も一見関わりが無いような団体との交流を持てればと期待しております。

しかしながら、我々は活動場所の多くを行政に依存しなければならないのが現状であり、その行政の社会スポーツ部門を数多く主管している体育協会への積極的な参加協力もまた、自身の活動の一環であると思っております。

最後に、７０周年の節目を共に迎えられますよう今から１０年、地道に時に大胆なチャレンジを織り交ぜながら歩いていきましょう。

芦屋ヨットクラブは、2010年で30周年

芦屋ヨットクラブ　１０年の歩み

私ども芦屋ヨットクラブの最近１０年を振り返りますと、まず、当初の数年は、活動拠点である兵庫県海洋体育館（マリンセンター）が１９９５年の阪神・淡路大震災による大きな損壊から復旧した直後であり、活動が若干停滞した時期でありました。その後数年は、徐々にではありますが、メンバーも復帰し定期的な活動を再開していった時期です。後半は、余暇の多様化やマリンスポーツ人気の高まり等を受けて、メンバーも増加傾向となり、活動内容も充実してきている時期になります。

そこで、今回は、芦屋ヨットクラブの現在の定例的な活動を､順を追ってご紹介させていただきます。

■メンテナンスデー　…　【３月末から４月初め】
シーズンインを目前に、ヨット等の艇のメンテナンスや装備・備品のチェックを行い、シーズン中の安全確保を図ります。

■オープニングレース　…　【４月または５月】
本格的なシーズンのスタートとして、レースを開催します。

■少年少女一日ヨット教室　…　【７月または８月】
子供達にヨットの楽しさを伝え、マリンスポーツへの親しみを感じてもらいます。

■クラブ杯レース　…　【９月２３日】
クラブの創立記念日に、シーズン中に磨いた腕前を競うレースを開催します。

■秋の少年少女一日ヨット教室　…　【１０月体育の日】
夏と同じ

■秋のメンテナンスデー　…　【１１月末から１２月初め】
シーズン中にお世話になった艇等の修理・補修を行います。

■合同練習　…　【毎月】
シーズン中、実施日を決めてメンバーのスキルアップを図ります。

■救命救急訓練　…　【３月】
オフシーズンに芦屋市消防本部にお願いして、心肺蘇生法等の訓練を行っています。

芦屋ヨットクラブは、２０１０年で３０周年を迎えます。３０周年に向けて､活動をさらに拡充させ、マリンスポーツの普及促進に役立っていければと思います。

創生期を懐古して

ゲートボールに魅せられて勝ち取った健康と長寿に感謝を込めて

高齢者の健康に最適のスポーツを求めていた芦屋市で、市教育委員会及び老人クラブ連合会がゲートボールを真剣に検討し導入することとなりました。

兵庫県ゲートボール連合会会長の望月登様を迎えてゲートボールの講習会が開催され、受講した人達が中心となり市内各地域でゲートボールの指導に当たられました。

市教育委員会では、引き続いてゲートボールの普及振興と併せて競技技術の向上を図るため、原田先生、寺本先生、権藤先生による巡回指導を続けられました。

昭和５７年芦屋市教育委員会及び老人クラブ連合会が主催するゲートボール競技大会が開催されるまでに発展しました。ゲートボール人口が増加するに伴って、協会設立の機運も高まり、有志が発起人となり、昭和５７年９月１６日会則が立案され、昭和５７年９月１８日開催の設立総会で芦屋市ゲートボール協会が創立し、初代会長に川村茂様が選ばれました。

芦屋市体育協会に加入させていただいて以来、芦屋市におけるゲートボールを統括する団体として位置づけられ各方面のご支援を得て今日に至りました。全盛期には１８０名にもなり、老人クラブ主催の大会を毎年欠かさず開催していただきました。老人クラブ以外にもライオンズクラブ大会コープ杯、交通安全大会、カンポ大会、毎日新聞杯、関信大会、生命保険大会、大阪ガスすずらん杯と、県はもとより県外も、福井県、鳥取県、和歌山県、長野県、大分県、宮崎県、新潟県、広島県、米国ハワイ等々数え切れないほど遠征しました。

そんな折、阪神淡路を襲った大地震に見舞われました。余震の危険がある厳寒の中を県連合会長の望月様が、自らミニバイクを駆使して被災地の会員を激励に見舞われたことは芦屋市ゲートボール協会会員一同永久に忘れることはできませんし、語り伝えなければならない事です。

芦屋市老人クラブも「災害復興がんばろうＧＢ大会」を開催して、私達会員を勇気づけてくださいました。本当に有難うございました。

地震以来、事情があって芦屋を後にされた方やお亡くなりになられた方、と年々会員が減少して参りました。時代の流れもあり、次々と老人向けの新しいスポーツが考案されゲートボールは取り残される形となりました。

今年に入ってまたまた減少しましたので、止む無く芦屋市体育協会へ休会を申し入れましたところ、気持ちよく承諾していただき､「また会員が増えたら復会してください。」と言っていただいて嬉しかったです。

改めて芦屋市体育協会、市教育委員会及び老人クラブ連合会のご指導ご支援に対し、深く感謝申し上げます。

今年は県ゲートボール連合会も創立３０周年を迎え、盛大に記念式典及び親善大会が開催されます。芦屋市ゲートボール協会も少人数ながら賛同、協力したいと考えています。

生涯スポーツゲートボールに魅せられて勝ち取った健康と長寿に感謝を込めて、今一度、活気ある姿に復帰させなければと会員一同頑張っています。

昭和57年9月設立

テーマは「感動する心」

「日本拳法が強い芦屋とはこの町か！」と言われる程になりたい

当協会は小学校が週休二日制に取り組み始めた平成４年に、芦屋に住む緒方憲吾が潮見小学校の体育館を使って、同校生徒を対象にしたコミスク活動として始まりました。その後、平成７年の阪神淡路大震災をきっかけに市立体育館が改築され、使用方法を検討する中で芦屋市体育協会へのお勧めをいただき、平成９年に加盟しました。併せて、活動の拠点である道場も芦屋市立体育館の柔道場になりました。空調も整う畳の練習場であり阪神芦屋駅に近く交通の便が良いという、施設の立地・設備の両面が、それまでの地域や年齢の狭さを解決し、芦屋市全体が対象になったのです。

この１０年間、少年においては常に兵庫県下ＮＯ１の道場としての評価をいただき、お陰様で、毎年の芦屋市や芦屋市体育協会の表彰では遠慮が必要なぐらい、多くの選手が受賞しています。他の競技と同じく芦屋市が施設を用意し、体育協会が運営をサポートし、指導者（競技団体）が競技スポーツを教え、市民がそれを受ける。このシステムが上手く働いていると言えるでしょう。

当協会も徐々に力をつけ、平成１４年に１０周年記念の交流試合を芦屋市立体育館で開催、１９年の「のじぎく国体」でも兵庫県連盟の中心となって協力できたと思います。また、昨年、代表の緒方憲吾が全国少年連盟の会長に推され、全国を見据えた活動が求められるようになりました。芦屋の後任代表には黒田敦子が就任し、保護者と一体となった運営を心掛けています。その中で、昨年から始まった、姫路の県立武道館で開催する全国少年大会団体戦は、今年も出場するだけでなく、実際に主管する団体として保護者総動員でボランテイア精神を発揮して運営しています。このボランティアの志が、子供の活動にもいい影響を与えてくれるでしょう。

今後の課題としては、少年中心は変わらないものの、成人の部を更に充実させることです。幸い、当協会が発足した平成４年に一期生として入門した小学１年生の黒田　健が大学の拳法部主将を土産に帰ってきましたので、今後は成人の中心になって頑張ってくれるものと期待されます。この１０年間、テーマの「感動する心」を求めて青少年の心身の健全育成の為に活動してきましたが、日本はますます精神の荒廃を迎えています。スポーツが、特に武道による「徳育」の必要は強くなっているのです。
かつて席を置いた子供の成長を見たり聞いたりすれば、指導者は継続が報われたような気がします。今後は、大きくなった子供がまた帰ってきたり、親となってその子供が入門してくることもあるでしょうそんな帰って行く「スポーツふるさと」になることが大事です。そうなって、やっと世代を超えた真の市民スポーツになることができるのではないでしょうか。そのためにもここ芦屋で継続をしなければならないのです。国際都市芦屋にこそ武道の意味があります。「ここは芦屋か。そうか、日本拳法が強い芦屋とはこの町か！」と言われる程になりたいものです。

これまで協力いただいた、芦屋市、芦屋市体育協会、交流のあった芦屋市民に感謝し、また、次の１０年に向けて歩みを始めます。

芦屋市体育協会創立６０周年記念誌に寄せて

カヌー競技は、親水性豊かなスポーツ

芦屋市カヌー協会は、平成１７年４月に設立し、同年５月に芦屋市体育協会に認証・加盟させていただきました。芦屋市体育協会の中では、最も新参のスポーツ団体となります。設立母体は、芦屋ドラゴンボート協会であり、同協会は、平成９年に　社団法人芦屋青年会議所が　２５周年記念事業により、創設したものです。当初は、芦屋サマーカーニバルに合わせて、ドラゴンボートレース大会を開催することが、活動の中心で、夏の一日、市民の方々に親水性豊かなスポーツを楽しんでいただきました。当時の会員数は、約２０名で、体育指導委員の方々と芦屋青年会議所メンバーとの親睦を深める団体でありました。

ドラゴンボートレース大会は、平成４年に社団法人芦屋青年会議所が２０周年記念事業として大会を開催したのち、翌年、第１回大会を開催し、震災後２年のブランクののち､平成９年に第３回大会から、継続的に行っており、平成２０年には第１４回を迎えるまでになりました。参加者は、遠くは千葉県からの参加もあり、参加チーム数　約７０チーム　選手数約９００名にも及ぶ大きな大会に成長いたしました。今後も、広く市民の方々に、親水性豊かなスポーツを楽しんでいただくべく継続できればと考えています。

芦屋市カヌー協会は、平成１８年　第６１回国民体育大会 「のじぎく兵庫国体」カヌー競技（フラットウォーター）が、芦屋市（芦屋キャナルパーク）で行われることを受け、カヌーの競技者・愛好者と芦屋ドラゴンボート協会により、設立させた団体です。「のじぎく兵庫国体」においては、競技の後方支援を行い、円滑に競技が行えるよう協力させていただきました。歴史の浅い団体ではありましたが、持ち前のチームワークの下、１週間の開催期間を務めきることができました。

当協会は、３月に開催される「芦屋カヌーレガッタ」､６月に開催される｢大阪学生カヌー選手権大会｣、７月に開催される「芦屋カップドラゴンボートレース大会」、９月に開催される「芦屋市民カヌー大会」を主管し、定例会として、芦屋カヌークラブによる「カヌー教室」を隔週開催しています。また、平成１９年度は､｢国体出場選手による少年少女スポーツ教室（カヌー)」を兵庫県阪神南県民局からの委託事業として、主管致しました。

今後、当協会では､｢のじぎく兵庫国体」の開催により高まったカヌー競技への機運を活かし、市民が気軽に楽しめる生涯スポーツとして、カヌー競技の振興に努めて行きたく考えています。また、国体競技会場にもなった「芦屋キャナルパーク」のカヌー競技に適した環境を生かし､｢芦屋をカヌーのメッカに！！」をモットーに活動していきます。今後とも活動にご協力の程お願い申し上げます。

平成17年4月設立

第61回 国民体育大会

のじぎく兵庫国体

“ありがとう”心から・ひょうごから

1，300人の市民ボランティアと共に、大会の成功に芦屋市体育協会も奮闘！

「のじぎく兵庫国体」が、２００６年（平成１８年）９月３０日（土）～１０月１０日（月）にかけて、県内各市町を会場に、２５，０００人の選手団が、競技を展開しています。この大会から夏季及び秋季大会が一本化され、正式３７競技と公開２競技が開催されています。

第１回国体は、１９４６年（昭和２１年）、京都を中心とした京阪地域で開催されており、兵庫県では、５０年前の１９５６年（昭和３１年）に、第１１回国体が開催されています。

第６１回国体では、芦屋市で、１０月１日から３日にかけて、兵庫県警察学校を会場に、都道府県を代表する４７人の選手が出場し、ライフル射撃競技（センター・ファイア・ピストル）が、１０月６日（金）から９日（月）にかけて、キャナルパーク特設競技場を会場に、３２６人の選手が出場し、カヌー競技（フラットウォーターレーシング）開催されています。

このカヌー競技のオープニングでは、市立潮見中学校生徒によるマーチングが華やかさを演出し、1，５００人の観覧者とともに競技の開始を飾っています。

芦屋市は、教育委員会国体推進室を設置し、「のじぎく兵庫国体」開催に向けた様々な取り組みと準備を行っています。６月１７日（土）、まちの美観向上と国体の開催気運を高めるため、芦屋中央線ＪＲガード下の南北道路で「ウォールペインティング」を開催し、国体開催１００日前の６月２２日（金）には、ＪＲ芦屋駅前北側ペデストリアンデッキで、５０年ぶりの兵庫県開催を祝う記念イベントを開催しています。また８月３１日（木）午後６時から、ＪＲ芦屋駅前ペデストリアンデッキで、国体開催１カ月前を祝うイベントが開催されています。さらに子どもたちに人気の「はばタンダンス」講習会が、９月７日（浜風幼稚園）・９日（伊勢幼稚園）・１４日（岩園幼稚園）、１７日（ＪＲ芦屋駅前北広場）で行なわれています。

９月１７日（日）午後２時から、応募した３０人程度の走者による大会旗・炬火リレーが、市役所→芦屋公園→図書館→宮塚公園→市民センターをコースに、多くの市民の拍手に包まれながら市内を走り、国体開催に向けて気運を盛り上げています。

芦屋市が主催者となったスポーツ芸術では、９月２７日、市民センター３０１号室で、力武　敏昌氏（元神戸新聞社運動部長）を招き、「還暦国体　よもやま話」をテーマに講演会を開催しています。さらに９月２７日～１０月９日にかけて、市民センター多目的ホールで芦屋ゆかりのスポーツ選手の写真展や第１１回国体の写真の展示やビデオの放映が行われています。

「のじぎく兵庫国体」のオープニングを飾る開会式は９月３０日（土）午前１０時３０分から、神戸総合公園ユニバー記念競技場で開催されています。

芦屋市体育協会も各種目協会の協力を得ながら、延べ約１，３００人の市民ボラティアと共に、競技運営の会場での受付・案内、駅での案内、休憩所での選手接待、会場美化、賞状筆耕、開会式、表彰式運営アシスタントなどを務めると共に、とりわけカヌー競技では、事前の講習会で、審判員となるための資格を取得し、またライフル射撃競技では、標的交換、競技映像ネット配信などで活躍し、大会運営に積極的な役割を果たしています。

「“ありがとう”心から・ひょうごから」をスローガンに開催された「のじぎく兵庫国体」は、１０月１０日の閉会式をもって総ての日程を終了しています。

平成２０年度特定非営利活動法人芦屋市体育協会役員

会　　長	花　木　義　輝	芦屋市少林寺拳法協会
副 会 長	水　落　章　治	芦屋市サッカー協会
	牧　野　君　代	芦屋市バドミントン協会
	髙　橋　誠　彦	芦屋空手協会
名誉会長	長谷川　節　男	元芦屋市体育協会会長
名誉顧問	山　中　　健	芦屋市長
顧　　問	山　田　美智子	兵庫県議会議員
	藤　原　周　三	芦屋市教育長
	室　井　　明	元芦屋市体育協会副会長
	暮　部　清　俊	元芦屋市体育協会副会長
	車　谷　博　巳	中学体育連盟会長
	門　　信　雄	学識経験者
	小　田　脩　三	芦屋市陸上競技協会
	藤　木　崇　博	芦屋柔道協会
	都　筑　省　三	芦屋市卓球協会
	藤　田　通　寛	芦屋剣道協会
	渡　邊　健　一	芦屋市テニス協会
	柳　　洋	芦屋市バレーボール協会
	森　本　　勇	芦屋ソフトボール協会
	渡　邉　　徹	芦屋ヨットクラブ
理 事 長	西　田　俊　一	芦屋市サッカー協会
副理事長	京　田　弘　幸	芦屋市テニス協会
監　　事	古　谷　一　夫	古谷税理士事務所
	半　田　　篤	芦屋市サッカー協会

平成２０年度特定非営利活動法人芦屋市体育協会会員

理　　事	花　木　義　輝	芦屋市少林寺拳法協会
	水　落　章　治	芦屋市サッカー協会
	牧　野　君　代	芦屋市バドミントン協会
	髙　橋　誠　彦	芦屋空手協会
	西　田　俊　一	芦屋市サッカー協会
	京　田　弘　幸	芦屋市テニス協会
	山　根　修　志	芦屋市陸上競技協会
	岡　本　迪　宏	芦屋柔道協会
	市　井　夕　美	芦屋水友会
	相　塲　　勉	芦屋登山会
	清　川　　渡	芦屋野球協会
	若　林　裕　子	芦屋市卓球協会
	小　倉　正　幸	芦屋剣道協会
	渡　辺　弘　一	芦屋市ソフトテニス協会
	森　　正　行	芦屋市弓道協会
	中　田　　豪	芦屋空手協会
	原　田　次　代	芦屋市バレーボール協会
	遠　山　　潔	芦屋ソフトボール協会
	國　廣　正　則	芦屋市バドミントン協会

	村田勝英	芦屋市少林寺拳法協会
	木下　哲	ＮＰＯ法人　芦屋ラグビーソサエティ
	小倉信彦	芦屋ヨットクラブ
	黒田敦子	日本拳法芦屋
	古津純子	芦屋カヌー協会
	休　会	芦屋市ゲートボール協会
監　事	古谷一夫	税理士
	半田　篤	芦屋市サッカー協会
正会員	上野哲男	芦屋市陸上競技協会
	鈴木義哉	芦屋市陸上競技協会
	浅田太枝子	芦屋柔道協会
	上坂元庸隆	芦屋柔道協会
	齋藤陽二	芦屋水友会
	中西謙吾	芦屋水友会
	福田貞之	芦屋登山会
	田中利忠	芦屋登山会
	一宮文雄	芦屋野球協会
	西村康治	芦屋野球協会
	野中　勇	芦屋市卓球協会
	浜野英明	芦屋市卓球協会
	樋口　裕	芦屋剣道協会
	斉藤宏光	芦屋剣道協会
	柾木秀夫	芦屋市ソフトテニス協会
	高木和彦	芦屋市ソフトテニス協会
	林　文夫	芦屋市弓道協会
	水江道子	芦屋市弓道協会
	西森　悟	芦屋市テニス協会
	中西英仁	芦屋市テニス協会
	岡田新一	芦屋空手協会
	末菅雅彦	芦屋空手協会
	北尾文孝	芦屋市バレーボール協会
	服部和子	芦屋市バレーボール協会
	森本勝則	芦屋ソフトボール協会
	長谷啓弘	芦屋ソフトボール協会
	鍵本勝美	芦屋市サッカー協会
	半田　篤	芦屋市サッカー協会
	近藤岱子	芦屋市バドミントン協会
	松崎　明	芦屋市バドミントン協会
	炭原修一	芦屋市少林寺拳法協会
	田中英将	芦屋市少林寺拳法協会
	廣山裕樹	ＮＰＯ法人　芦屋ラグビーソサエティ
	藤浪恒三	ＮＰＯ法人　芦屋ラグビーソサエティ
	渡邉　徹	芦屋ヨットクラブ
	村上　治	芦屋ヨットクラブ
	緒方憲吾	日本拳法芦屋
	野田傳治	日本拳法芦屋
	濱田雅義	芦屋カヌー協会
	根津嗣郎	芦屋カヌー協会
	休　会	芦屋市ゲートボール協会

賛助会員　さわだクリニック　澤　田　喜　博
あらまき歯科医院　荒　巻　忠　幸
丸菱産業株式会社大阪支店
粟　井　　明
クリオジャパン株式会社ＡＫＹプロジェクト
サウサリート　ミズノテニススクール

専　門　委　員　会

【総務委員会】

牧　野　君　代	芦屋市バドミントン協会
岡　本　迪　宏	芦屋柔道協会
若　林　裕　子	芦屋市卓球協会
渡　辺　弘　一	芦屋市ソフトテニス協会
森　　正　行	芦屋市弓道協会
國　廣　正　則	芦屋市バドミントン協会
小　倉　信　彦	芦屋ヨットクラブ
浅　田　太枝子	芦屋柔道協会
松　崎　　明	芦屋バドミントン協会

【広報委員会】

髙　橋　誠　彦	芦屋空手協会
市　井　夕　美	芦屋水友会
相　塲　　勉	芦屋登山会
中　田　　豪	芦屋空手協会
遠　山　　潔	芦屋ソフトボール協会
村　田　勝　英	芦屋市少林寺拳法協会
森　本　勝　則	芦屋ソフトボール協会

【事業育成委員会】

水　落　章　治	芦屋市サッカー協会
小　倉　正　幸	芦屋剣道協会
木　下　　哲	ＮＰＯ法人　芦屋ラグビーソサエティ
黒　田　敦　子	日本拳法芦屋
古　津　純　子	芦屋カヌー協会
山　根　修　志	芦屋市陸上競技協会
清　川　　渡	芦屋野球協会
三　方　良　彦	芦屋野球協会
西　森　　悟	芦屋市テニス協会
末　菅　雅　彦	芦屋空手協会
服　部　和　子	芦屋市バレーボール協会
鍵　本　勝　美	芦屋市サッカー協会
廣　山　裕　樹	ＮＰＯ法人　芦屋ラグビーソサエティ
半　田　　篤	芦屋市サッカー協会

創立６０周年記念芦屋市体育協会
功労者表彰者

北　条　正　夫
森　口　　武
國　廣　正　則
小　倉　信　彦
松　崎　　明
三　方　良　彦

特定非営利活動法人　芦屋市体育協会
創立６０周年記念行事運営委員会委員

会　　長	花　木　義　輝
副　会　長	水　落　章　治
	髙　橋　誠　彦
	牧　野　君　代
委　員　長	西　田　俊　一
副　委　員　長	京　田　弘　幸
	國　廣　正　則
	木　下　　哲
	村　田　勝　英
記念講演運営委員	（事業育成委員会）
祝賀会運営委員	（総務委員会）
記念誌作成委員	（広報委員会）
会　　計	若　林　裕　子
	松　崎　　明

あとがき

本書の編集作業を終える頃は、北京オリンピックで活躍する日本の選手たちの姿が報じられ、日本中を賑わしていることでしょう。将来は、芦屋市からもオリンピック選手の誕生を期待したいものです。

さて、このたびの記念誌の編集では、種目協会の皆様と共に歩んできた“６０年”が共有の財産であることを確認すると共に、「親しみが持て、読みやすい記念誌」を念頭に進めてまいりました。

編集を終えて、本書を刊行できました今、重責を果たしえたことの安堵感と喜びがあります。その一方で、時間的な制約や費用の面から、ご寄稿いただきました記事や写真等の総てを収録できなかったことは残念です。このため、活動状況を十分に伝えることができただろうかという思いがしてなりません。

ところで、本書の編集で受けた印象は、練習の道具や場所の確保どころか衣食住さえ大変困難な戦後の混乱期の中で、芦屋市体育協会を創設した先人たちの精神が、今日の私たちに引き継がれているということでした。未曾有の大災害をもたらした阪神淡路大震災の中から市民スポーツを見事に復興させたことは、その証とも言えるのではないでしょうか。そして共通していることはスポーツに寄せる熱情であり、力強い復興への思いということでした。また特定非営利活動法人芦屋市体育協会が、種目協会の皆様に支えられていることを改めて痛感させられたところです。

短期間にもかかわらず本書を刊行できましたことは、偏に種目協会の皆様のご協力の賜物と感謝申し上げる次第です。

またご祝辞を賜りました芦屋市長　山中　健　様、芦屋市教育長　藤原　周三　様に、この紙面を借りまして、心から御礼を申し上げます。

特定非営利活動法人
芦屋市体育協会　広報委員会

６０周年記念誌

５０周年から１０年の歩み

平成２０年９月２１日発行

発　　行 ／ 特定非営利活動法人
芦屋市体育協会
〒６５９－００７６
芦屋市清水町９番１１号
℡0797-31-8228
発行責任者 ／ 花　木　義　輝
編　　集 ／ 広報委員会
監　　修 ／ 髙　橋　誠　彦
印　　刷 ／ 株式会社　旭成社